

第3回 物流用ドローンポート連絡会 議事概要

1. 主な議事

- 事務局及び構成員より各資料を説明した上で、意見交換を行った。

2. 主な意見

- GLP 座間の実証では GPS 処理から画像処理への切り替え時に不具合があったが、伊那市では改善しうまく切り替えができた。
- マーカーに ID を設定する場合、場所によってどの大きさを、どのように配置するか等、実用化に向けて検討が必要ではないか。
- インターフェース部分の開発は、国際標準化を見据える場合、どういう情報が必要かを考えるべきではないか。
- 伊那市の実験では操縦者補助者がついており、ドローンと地上の通信は確保していたが、将来の長距離輸送を想定した通信経路を検討する必要があるのではないか。
- 荷物輸送実験の課題部分はもっともである。
- ドローンポートのスペックについては、どれくらいの費用でドローンポートを作るかによって優先順位や最低限必要となるものが変わる。また、受け取る側が、事業者か一般の利用者かによっても必要となるスペックが変わることを踏まえ、検討する必要がある。
- 2018 年頃の本格稼働まで残り 1 年と少ししかない状況であるが、まだ課題は多く、スケジュールはかなり厳しいと思われるため、今後の検証は要領よく実施する必要がある。
- 今年度 1 年を通して研究開発は計画どおり進んでいるのか。次年度に残しているものはあるのか。
- ドローンの飛行や離着陸だけでなく、荷物の取卸しや受取も自動化するため、受取の認証システムも課題である。

- 一般的に GPS で制御しているドローンに対して、ドローンポートはどれくらいプラスになるのか。機上のモジュールはどのように展開させるのか。
- 今回の荷物輸送実験では、500g の雑穀を輸送したとのことだが、今後の実験においては実用化を睨んで、より重い荷重で輸送実験を行ってほしい。
- ドローンポートの高さを人の身長より高くすることで、安全性を確保することも考えられるため、ドローンポートの設置高さも検討項目の一つに入れる必要があるのではないか。また、ドローンポート周囲を囲うことで安全を確保してはどうか。
- ドローン物流が実用化されるには、風等の天候や電波等の問題を解決する必要があり、技術開発が必要。

(以上)